

2014 年度 センター試験 倫理(本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：37 問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	○ 変化なし ● 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評 昨年比で、大問数は 4 で変わらず、解答数は 38 から 37 に減少した。昨年同様、青年期の独立問題はなく、現代社会の諸問題・現代思想問題と融合している。出題頻度の低い主題や分野からの問題、また文脈から読み取る問題についてはやや難であるが、全体としての難易度は昨年から変わっていない。ただ、社会主義の問題（第 1 問の問 1・6、並びに第 4 問の問 6）が計 3 問と例年よりも多かった点が注目される。倫理・政経とは大問中 3 問のリード文が同じであり、問題も一部重複している。</p>			

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	フェア・トレードを題材に、現代社会の諸問題・青年期の心理・社会主義などを総合的に問う。	28 点	社会主義（片山潜、サン＝シモン、修正社会主義）・青年期論（エリクソン、オルポートなど）・グローバル化・環境問題（京都議定書・地球サミットなど）・正義論（ロールズ）など、幅広い出題だった。例年通りグラフ問題が 1 問あった。
第 2 問	欲望の節制や他者への愛を中心としたリード文で、源流思想を問う。	24 点	問 3、5 はここ数年定着した感のあるイスラム教関連問題であるが、問 7 はここ数年見かけない八正道の内容を問うものである。アリストテレス（問 1）で問われるのは、中庸論や習慣論が多いのに対して性格論は少なく、またアウグスティヌスの自由意志論（問 6）はあまり問われないので、いずれもやや難と思われる。
第 3 問	日本的自然観の歴史的変遷を中心としたリード文で、日本の思想を総合的に問う。	24 点	鎌倉仏教や近世儒教の主要思想家が問われず、その代わりに出題頻度の低い日本の美意識の問題（問 3）が出題された点が注目される。神仏習合（問 1）は、例年とは異なる視点から出題されており、また鈴木正三や熊沢蕃山（問 6）は主流の思想家ではないため、いずれもやや難と思われる。
第 4 問	「想像力」を主題としたリード文で、西欧近現代思想を幅広く問う。	24 点	例年にない主題（想像力）を軸にした問題である。トマス・モア（問 2）、ゲーテ（問 5）、サルトルとカミュ（問 8）は出題頻度が低く、やや難と思われる。第 1 問と同様、社会主義（マルクスとエンゲルス）の出題（問 6）が注目される。